



# 東京五輪延期もモチベーション変わらず

## “セブンズ” 日本代表を直撃

今年、1964年以来54年ぶりに東京で夏季オリンピックが開かれる予定だったが、また、今年のオリンピックは「復興五輪」とも呼ばれており、特別な思いをにかけて臨む人も多かった。しかし、全世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響を受け、残念ながらオリンピックは延期となってしまった。延期となってしまったオリンピックのことを選手たちはどう思っているのか、また延期となつてしまったことで練習のモチベーションはどうか維持でき

きるようにしているのか。天理大学ラグビー部の菅平合宿が中止となったことを聞き、天理大学ラグビー部が宿泊予定であった菅平プリンスホテルへ訪れたという7人制ラグビー日本代表林大成選手に話を聞いた。林大成選手は2年間以上も続け、所属チームや練習場所も決めていないという生活を送っているという林選手によると、「最初は(オリンピックが)1年延期だと思っていたし、もっと早く活動が始まると思っていたので練習のモチベ

**林大成**：1992年6月27日生まれ 大阪府出身 東海大仰星高校卒業後、東海大学に入学。高校時代、U17日本代表に選出。大学ではラグビー部キャプテンとして全国ベスト4へと導いた。現在チームに所属せず、家も所有していない。チームに所属すると15人制の練習をしながら7人制の練習をしなければならない。そのため、7人制に没頭するため、自分で練習パートナーや場所を選び、行く先々に1つのスーツケースを持ち運び泊まっている。また、「7人制ラグビーを広めたい」という理由からYouTubeで動画を配信している。7人制ラグビー日本代表。

コロナウイルスはこのままだと治療薬やワクチンが開発されない限り収束は難しいだろう。そこでスポーツ選手は、「オリンピック」という一つの目標がなくなってしまうかもしれない中での練習への向き合い方や、コロナ禍の中、感染対策をどう講じながら試合を行っ

ていくかなど、日々の社会情勢を考え、自分自身と葛藤しながらスポーツに取り組んでいることがわかった。菅平へは「寝て起きてすぐに練習ができる環境があること」と「お世話になつた菅平を微力ながら盛り上げたい」との思いもあつて訪れたという。(堀内 日菜子)



菅平プリンスホテルのグラウンドで自主練習を行う7人制ラグビーセブンズ日本代表の野口宜裕選手 写真撮影=橋爪ここ菜

上田西高校のサッカー部も菅平への支援に動き出した。30年前程前から菅平で合宿を行っている繋がりがあるからだ。菅平で合宿を行いたい始めたきっかけは、県外から多くの強豪校が合宿に訪れ、菅平に行くといろんなチームと練習試合が出来たことと、当時高校1年生だった大久保専務の実家が菅平でホテル業を営んでいたことが理由だ。菅平で強豪校との練習試合をすることで「こんなに強いチームがあるのか」と上田西高校のサッカー部は大きな刺激を受けた。

## サッカー部 菅平を支援へ

宿泊している宿舎のチームと練習試合が出来ないからだと話して、今年度は新型コロナウイルスの影響で合宿に行くことができていない。このように菅平を応援したいと考えている上田西高校ではこの他にも男子バレー部の1、2年生と3年生の一部がクラウドファンディングに協力している。(橋爪ここ菜)



サッカー部と菅平の繋がりについて話すサッカー部の渡邊善和総監督

## 7人制ラグビー 魅力は「目まぐるしい試合展開」

昨年、ラグビーW杯が開催され、流行語大賞に「One Team」が選ばれたり、日本に空前の「ラグビーブーム」が巻き起こった。外国出身の選手も多く、文化の違いや、言語の壁もあつた中で選手たちが初めて掴んだベスト8だった。そんな選手たちの勇姿を見て元気づけられた人も多いだろう。一方で、昨年行われたラグビーワールドカップは15人制ラグビーだが、ラグビーには7人制もある。そ

こで、2016年リオデジャネイロオリンピックから夏季オリンピック正式種目となつた7人制ラグビーの日本代表林選手、野口宜裕選手に取材を行った。

15人制と7人制ラグビーの違いは何なのだろうか。野口選手は15人制と7人制ラグビーの違いの大きな違いを、「試合時間と試合数」だと話した。15人制ラグビーは40分前後半、計80分だが、7人制ラグビーは7分前後半の計14分しかなく、観客側からするとあつとあつとという間に終わってしまう印象を受ける。しかし、7人制ラグビーは試合時間が短い代わりに1日に2、3試合行われるそう

こまで聞いた限りでは、7人制の方が15人制よりもハードなような感じがするが、7人制ラグビーの魅力はどんなところにあるのだろうか。林選手は7人制ラグビーの魅力について、「試合時間が短いけれど、15人制と同じくら

に一人一人の走る距離が長くなる。長距離を走る。それを2、3度繰り返すのが大変だというのは素人目で見てもわかる。

この点が入るため、見せ場がどんどん早いペースで訪れる。会場が盛り上がるタイミングが早いスピードで生まれるし、見ている方が暇しない試合になると思う」と話した。ラグビーだけでなくサッカーやその他のスポーツで試合が停滞しているときは、飽きてしまう観客も出てくるかもしれない。だが、7人制ラグビーの場合は観客に飽きさせる暇を与えないほど、試合展開が目まぐるしく変化するということがわかった。(堀内 日菜子)



菅平プリンスホテルのグラウンドで自主練習を行う7人制ラグビーセブンズ日本代表の林大成選手 写真撮影=橋爪ここ菜